

ホームページで  
ご覧になれます

一般質問の質疑質問  
・答弁の全文は右の  
QRコードからご覧  
になれます。



本会議の様子

用語解説

- ※1 グリーン・リカバリー  
新型コロナウイルス感染拡大による経済落ち込みからの経済復興に当たり、環境に配慮した持続可能な社会の再構築を目指す考え方のこと。
- ※2 ゾーン30  
生活道路における交通安全対策の一つで、区域(ゾーン)を定めて自動車の走行速度を抑制し、歩行者や自転車、通学児童の安全の確保を目的とした事業。区域内の最高速度時速30km/hの速度規制、車線幅員の減少などの対策が実施されている。
- ※3 医療的ケア児  
日常生活を営む中で、「たんの吸引」や「経管栄養」などの医療的ケアを必要とする状態にある子どものこと。

- ※4 分身ロボット・オリヒメ  
株式会社オリイ研究所が開発した分身ロボットの名称。カメラ・マイク・スピーカーが搭載されており、インターネットを通して遠隔操作が可能。入院や身体障害などで通学・通学が困難な方の「移動の制約」を克服し、「その場にいる」ようなコミュニケーションを実現する。
- ※5 ALS患者  
手足・のど・舌の筋肉や呼吸に必要な筋肉がだんだん痩せていく筋萎縮性側索硬化症(ALS)という進行性の神経疾患の患者で、国内で約1万人がこの病気を患っている。



画像提供  
株式会社オリイ研究所

意見書・決議

意見書13件を全会一致で可決し、国に提出しました。  
また、決議3件を全会一致で可決しました。

- 重度心身障害者に対する公費負担医療制度の創設を求める意見書
  - 新型コロナウイルスワクチン接種に関し国による責任を持った対応等を求める意見書
  - 沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋立てに使用しないこと等を求める意見書
  - 消費者を不利な決定に誘導する「ダークパターン」と呼ばれる仕組みを規制する法の整備を求める意見書
  - 女子差別撤廃条約選択議定書の批准及び国内法の整備を求める意見書
  - 太陽光パネルの丘陵地への立地規制等に係る法整備等を求める意見書
  - 北朝鮮当局によって拉致された被害者等の支援に関する法律の改正を求める意見書
  - 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた飲食店などと取引を行う食料卸事業者に対する支援を求める意見書
  - 米価下落対策を求める意見書
  - 盛土による土砂災害の防止に関する法整備を求める意見書
  - 犯罪被害者等のための特別休暇制度の義務化等を求める意見書
  - 出産育児一時金の増額を求める意見書
- 
- 北朝鮮による弾道ミサイル等の発射に断固抗議し、制裁措置の厳格な履行等を求める決議
  - 重度心身障害者医療費助成制度における支給対象者の拡大を求める決議
  - 中華人民共和国山西省における洪水災害に関する見舞い決議

県議会クイズ

令和3年9月定例会は、〇〇日間にわたり開かれました。

県議会ホームページからもご応募いただけます。

- はがきに右記のようにご記入の上、12月1日(水)(当日消印有効)までにお送りください。正解者の中から抽選でプレゼントを差し上げます。当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。対象は、埼玉県内に在住・在勤・在学中にいる方のみとなります。

63 330-9301

「県議会クイズ係」  
埼玉県議会事務局

- クイズの答え
- 郵便番号
- 住所
- 県外にお住まいで、選挙区が県内の方は、その市町村名
- 氏名・年齢
- 埼玉県議会だよりに対するご意見

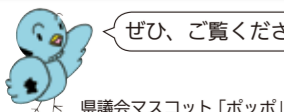
【個人情報の取り扱い】いただいた個人情報は、抽選とプレゼントの発送以外の目的には使用いたしません。

プレゼント

図書カード  
1,000円分  
…20名様

ヒント

1面をよーく  
読んでね!



福祉

**社会的養育の充実について**

福祉法に基づき、経験豊かな養育者が6人まで、児童を家庭的な環境で養育しており、地域での触れ合いを通じ社会性を養うことができる場所である。現在、県内に34カ所あるが、ホームからの要望内容とその対応、併せてどう数を増やしていくのかを伺う。

**医療的ケア児(※3)およびその家族に対する支援は国と自治体の責務**

今年6月に法律が成立し、医療的ケア児とその家族に対する支援は国と地方自治体の責務となった。現在、医療的ケア児の入院時にヘルパーの利用が認められ、食事も24時間付き添い、食事も利用を可能とすることについて見解を求めらる。

**分身ロボット・オリヒメ(※4)は、重度身体障害者の方の生活に活用できるか。**

分身ロボットのオリヒメは、置いた場所で、遠隔から発言をし、声を聞き、自分の体のように動かすことができる。こうした新しいテクノロジーを活用し、ALS患者(※5)など障害者の社会参加や就職支援を行い、誰もが生き生きと生活できる共生社会の実現を図ることにはできないか。

雇用

**難病患者の就業機会確保と継続雇用のために**

難病患者の就業が進んでいない。県では難病相談支援センターを通じてハローワークの難病患者就職サポートによる支援をしているが、就業に結び付くのは少数である。難病患者の就業機会の確保と継続雇用のために、企業側に強く呼びかけ理解を深めるべき。

教育

**防災学習のための自衛隊の活用**

各都道府県には自衛隊地的な学習や体験学習への協力をしている。災害派遣の経験がある自衛隊員から直接防災教育を受ける機会は有意義であると考えられる。本県でも、自衛隊埼玉地方協力本部の協力を仰ぎ、県内の学校での防災教育に役立ててはどうか。



新型コロナ対策

**新型コロナウイルス感染症自宅療養者に対する県と市町村の連携**

自宅療養者に対する食料や日用品の支給など生活支援に当たっては、スピード感をもって対応すべきである。今後、県と市町村が連携することをお勧めし、県から個人情報提供することになると思われるが、個人情報の提供はどのような枠組みで行うのか伺う。

**医療体制の充実について**

県は、発熱患者を診察し必要な検査を行う「診療・検査医療機関」を指定し、全国でも数少ないホームページでの全機関の公表を実現している。そこで同機関のコロナ第5波での検査実績を伺う。また、同機関への財政支援の充実、自宅療養者への対応協力について見解を伺う。

**コロナ禍の出口戦略について**

ポストコロナに向け、県はワクチン接種証明を活用した経済対策を検討している。その際、ワクチンが接種できない県民に不公平が生じない対策も検討する。ポストコロナの経済回復で経済と環境の両立を目指すグリーン・リカバリー(※1)を踏まえた経済対策をどう行うか。

環境

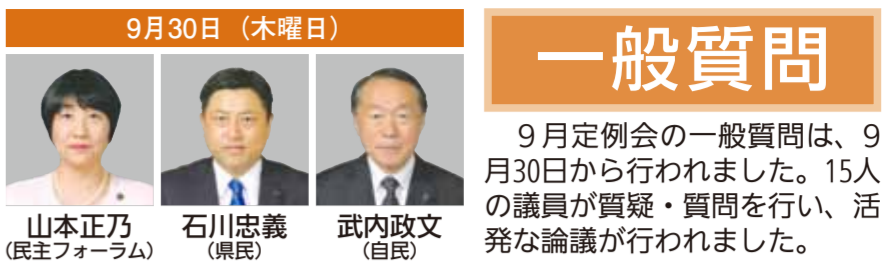
**カーボンゼロ社会に向けた取組**

太陽光発電施設の設置は、災害の危険性が高い山間地域での開発や環境の悪化など多くの問題を抱えている。この問題に対し既に条例の制定に取り組んでいる市町村もあるが、施設の建設増加が予想される中、市町村任せで適正な県土の保全活用と県民の安心安全が守られるのか。

安心・安全

**生活道路の交通安全対策について**

区域を定め生活道路を時速30km/hに規制する「ゾーン30(※2)」は効果的な安全対策である。これまでの県内の整備状況を伺う。また、道路に段差を設ける、道路幅を狭くするなど有効な物理的デバイスを組み合わせた「ゾーン30プラス」が今年発表されたが、その整備方針を伺う。



一般質問

9月定例会の一般質問は、9月30日から行われました。15人の議員が質疑・質問を行い、活発な論議が行われました。

**上尾運動公園とスポーツ科学拠点の一体的整備について**

スポーツ科学拠点の整備は上尾運動公園と一体的に行うのが良いのではないかと。また、施設機能を表す施設名はネーミングライツ活用を検討するなど、アスリート以外の一般の県民にも親しみやすいものにすべきではないか。上尾市やスポーツ関係団体が参加する協議会を設置すべきと考えるが所見を伺う。

**所沢航空記念公園運動場(サッカー場・ラグビー場)の値下げについて**

所沢航空記念公園運動場は人工芝の運動場・クラブハウスが整備された素晴らしい施設だ。しかし利用料金が高いため、県外の大人が利用できない状況だ。県営公園は県民が使うための施設。子ども育成の観点からも料金を見直し学生は半額にできないか。

オリンピック・パラリンピック

**東京2020オリンピック・パラリンピックを振り返って**

本県でのパラリンピック開催を契機に、パラリンピックの振興を図るべき。上尾市を候補地として設立が予定されているスポーツ科学拠点の一機能として、パラリンピックの選手育成を加えてはどうか。こうした取り組みが本県にレガシーを残すことにつながるかと考えるが所見を伺う。

**東京2020オリンピック・パラリンピック開催後のレガシーについて**

競技会場となった本県にあって、無観客開催となったが意義のある大会だった。多くの子どもたちや県民に向けて大会会場の試合観戦や競技体験などの機会を提供するなど、県として実施可能な代替え措置を実施すべき。そうしたことがレガシーにつながるかと考えるが所見を伺う。